

Nobody But Jimny

その先にある、まだ見ぬ世界へ。

どんな悪路をも乗り越え、あらゆる道を、思いのままに駆け抜ける。

ジムニー。積み重ねてきた歴史と伝統のメカニズムを受け継ぎながら、
その鮮やかな個性がいま、大きな進化を遂げた。

研ぎ澄ましたのは、ラダーフレームをはじめとした基本構造から、
使い勝手、先進の安全技術にまで至る、すべての性能。

ステアリングを握るたび、まだ見ぬ楽しさへの期待に心が昂ぶる。
たか

ジムニーと駆ける。その先には、いつだって新たな世界が拓かれていく。

新型 ジムニー 誕生



危険を予測し
安全運転をサポートする

SUZUKI
Safety Support
スマートの車両安全技術



新型ジムニーは、
サポカーS(ワイド)です。
XCおよび
ススキ セーフティ サポート装着車

詳しくは、こちらをご覧ください。
http://www.suzuki.co.jp/car/support_car/
*サポカーS(ワイド)は、政府が製造協議会の一環として販売されているものです。全ての車両の方にお勧めしていますが、異なる車両の方に多くペダル踏み間違い事故を引き起こす車両なども複数ありますので、高齢者の皆様には特にお勧めしています。





機能性をシンプルに突き詰めたインテリア

水平基調でデザインされた立体感のあるインストルメントパネルやアームレストは、ジムニーらしい力強さを表現するとともに、オフロードなどで車両姿勢を把握しやすくなります。また、フロントドアのベルトラインに段差を設けて視界を拡大するなど、インテリアのデザインにも機能性を追求しています。

細部にまで機能を追求

メータークラスターのヘアライン仕上げは、反射を抑えつつ硬質感を演出。



表面処理にも機能表現を

操作部には、反射を抑え、傷や汚れが目立ちにくい表面処理を採用。

*説明のために着色しています。

Nobody But Jimny

心を解き放ち、自由を楽しむ。

都市をスタイリッシュに流してもいい。大自然を縦横無尽に駆けてもいい。

20年の熟成を重ね、ジムニーシエラが鮮やかに進化した。

あらゆる道を軽やかに走破する、独創と伝統のメカニズム。

新開発の1.5Lエンジン。安心を支える先進の安全技術。

すべての性能を磨き上げ、余裕に満ちたパフォーマンスを生み出した。

フィールドを一切問わないその自由さこそが、ジムニーシエラの真髄。

心のままにクルマを楽しむ。比類なき個性が、ここにある。

新型 ジムニーシエラ 誕生



危険を予測し
安全運転をサポートする

SUZUKI
Safety Support
スズキの事故安全技術



新型ジムニーシエラは、
サポカーS(ワイド)です。
JCおよび
JL サズキ セーフティ サポート認定車

詳しくは、こちらをご覧ください。
http://www.suzuki.co.jp/car/support_car/
#サポカー(ワイド)は、当社が事故防止技術の一環として普及啓発しているものです。全ての年代の方にお勧めしていますが、高年齢の方に多い「ハムストライン」事故を軽減に
くする装置なども備えていますので、高齢者の皆様には特にお勧めしています。



本格4WDに、先進の安全性能を。

毎日の安心と、クルマの楽しさを支える。

スズキの安全技術

基本
安全

スズキセーフティサポート
予防
安全

衝突
安全

スズキの安全技術、それは、
乗る人の毎日を想い、小さなクルマで大きな安心を届ける技術。

前方・後方の視界をしっかりと確保するための大きな窓や
視認性の高いディスプレイ、操作しやすいスイッチ類など、
誰もが安心して乗れる運転のしやすさを考えた基本安全。

ヒヤリとする一瞬までも最小限に抑え、

事故そのものを未然に防ぐ予防安全技術「スズキセーフティサポート」。

衝撃吸収ボディーをはじめ、万一の衝突被害を軽減する衝突安全。

培い続けてきた安全技術の数々が、いつも、毎日の安心につながっていること。

小さなクルマに、大きな安心をのせて。

スズキは、人とクルマの楽しい毎日を支え、事故のない未来に向けて走り続けます。

スズキの基本安全技術

運転しやすく安心して乗れる、それが基本安全。



視界性能

右左折時の横断歩行者や交通状況を把握しやすいピラーやドアミラー位置、ピラーディスクとピラートリム形状の最適化などにより、視認性を向上させています。



運転姿勢と操作系

さまざまな体格の方が快適に運転できるよう配慮したシートと、操作性を考慮したステアリングホイール、ペダル、シフトレバーは、楽な運転姿勢と適切な操作性の確保により疲労を低減します。



インターフェース

視認性の高いメーターやディスプレイと、視認性や手の届きやすさ(押す、つまむ、握る)・操作方向・操作頻度などを考慮したスイッチ類の配置は、安心して運転に集中できる環境を提供します。

基本安全

運転しやすく安心して乗れる技術

SUZUKI Safety Support

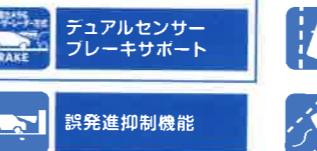
スズキの予防安全技術

安心して、楽しくスズキのクルマに乗っていただきたいという想いから生まれた「スズキセーフティサポート」。

事故を未然に防ぎ、お客様の万一のときの安全を確保するために、

運転をサポートする様々な技術で、ヒヤリとする場面も限りなくゼロに近づけていきます。

衝突被害軽減ブレーキ



テュアルセンサー
ブレーキサポート



車線逸脱警報機能



標識認識機能



ハイビームアシスト

標識認識機能

(JCおよびJL スズキセーフティサポート装着車^{*1})



走行中に、単眼カメラが認識した“最高速度”、“はみ出し通行禁止”的標識をメーター内に表示させ、ドライバーにお知らせします。

認識する標識

50

最高速度^{*2}

はみ出し通行禁止^{*2}



走行中に、単眼カメラが認識した“車両進入禁止”的標識を標識通過前にブザー音とメーター内表示で、ドライバーにお知らせします。

^{*2} 補助標識「終わり」を認識すると
メーター内表示が消えます。

車線逸脱警報機能

(JCおよびJL スズキセーフティサポート装着車^{*1})

約60km/h～約100km/hで走行中、車線の左右区画線を検知し、進路を予測。前方不注意などで車線をはみ出すとシステムが判断した場合、ブザー音とメーター内の表示により警報を発し、ドライバーに注意を促します。



先行車発進お知らせ機能

(JCおよびJL スズキセーフティサポート装着車^{*1})

セレクトレバーがD・N・2・Lレンジの位置(5MTはR以外)でブレーキ操作をして停車中、先行車が発進して約5m以上離れてても自車が停止し続けた場合、ブザー音とメーター内の表示によって先行車が発進したことをお知らせします。

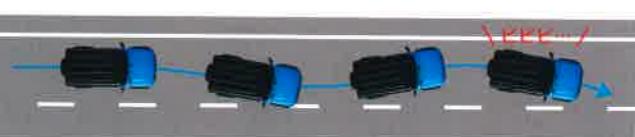


注意! 標識認識機能・車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能・先行車発進お知らせ機能・ハイビームアシストについてには限界があります。これらの機能に頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。状況によっては正常に作動しない場合があります。ご注意いただきたい項目がありますので、必ず取扱説明書をお読みください。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

ふらつき警報機能

(JCおよびJL スズキセーフティサポート装着車^{*1})

約60km/h～約100km/hで走行中、車線の左右区画線を検知し、自車の走行パターンを計測。運転の疲れなどで車両が蛇行し、システムが「ふらつき」と判断した場合、ブザー音とメーター内の表示によって警報を発し、ドライバーに注意を促します。



ハイビームアシスト

(JCおよびJL スズキセーフティサポート装着車^{*1})

約30km/h以上で走行中に、ドライバーがライトのスイッチで“AUTO”かつ“ハイビーム”を選択しているときに、周囲の環境に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り替えます。対向車や先行車がいる場合や、周囲に街路灯があるような市街地を走行している場合はロービームとなります。





デュアルセンサーブレーキサポート (JCおよびJL スズキ セーフティ サポート装着車*)

単眼カメラとレーザーレーダーでクルマや歩行者を捉え、自動ブレーキによって衝突回避または衝突時の被害軽減を図ります。自車速度約5km/h～約100km/h(対象が歩行者の場合は約5km/h～約60km/h)で走行中、前方の車両や歩行者を検知し、システムが衝突の可能性があると判断した場合、作動します。



! 作動した時の速度が約5km/h～約50km/h未満(歩行者の場合は約5km/h～約30km/h未満)であれば、衝突回避できる場合があります。周囲の環境や対象物の動きなどによっては、警報のみでブレーキが作動しない場合があります。また、警報と同時に自動ブレーキが作動する場合があります。

*自動ブレーキ機能作動時は強いブレーキがかかりますので、走行前に全ての乗員が適切にシートベルトを着用していることをご確認ください。
*自動ブレーキ機能による車両停車後は、クリープ現象により前進しますので、必ずブレーキペダルを踏んでください。

誤発進抑制機能 (JCおよびJL スズキ セーフティ サポート装着車の4AT車)

セレクトレバーがD・2・Lレンジの位置で停車または徐行中(約10km/h以下)、前方約4m以内の障害物を認識します。誤ってアクセルペダルを強く踏むと、エンジン出力を最長約5秒間制御し、急発進・急加速を抑制。同時に、ブザー音とメーター内の表示によって警報を発し、衝突回避または衝突時の被害軽減に貢献します。

! (デュアルセンサーブレーキサポート・誤発進抑制機能について) ■検知性能・制御性能には限界があります。これらの機能に頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。 ■状況によっては正常に作動しない場合があります。 ■ご注意いただきたい項目がありますので、必ず取扱説明書をお読みください。(デュアルセンサーブレーキサポートについて) ■対象物・天候状況・道路状況などの条件によっては、衝突回避または被害を軽減できない場合があります。 ■ハンドル操作やアクセル操作による回避行動を行なっているときは、作動しない場合があります。 ■詳しくは販売会社にお問い合わせください。

その他の安全装備

ESP®[車両走行安定補助システム]

カーブなどで横滑りを抑制するスタビリティコントロールと、発進・加速時に駆動輪の空転を抑えるトラクションコントロール、急ブレーキ時にタイヤのロックを抑えるABSを、総合的に制御するシステムです。さまざまなセンサーによって走りを監視し、必要に応じてエンジンとブレーキをコンピューター制御。車両の安定走行に貢献します。

*ESPはDaimler AGの登録商標です。 *ESP=Electronic Stability Program *エンジントルク低減の度合いやブレーキをかける車輪とその強さは走行状況により変化します。ESP®はあくまで安定走行を補助する装置です、タイヤと路面間のグリップの限界を超えてスリップや横滑りを起こした場合はESP®が作動したとしても、その効果は期待できません。

エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキをかけた際の車速が約55km/h以上の場合、ハザードランプを自動で高速点滅。後続車に急ブレーキを知らせ、注意を促します。

軽量衝撃吸収ボディーTECT[テクト]

衝突時の衝撃を効率よく吸収・分散するボディー構造を採用しています。さらに高張力鋼板やコンピューターによる構造解析を駆使して、安全性の向上と軽量化の両立を実現しています。



歩行者傷害軽減ボディー

ボンネットやフロントワイパー周辺、フロントフェンダー、フロントバンパーなどに衝撃吸収構造を採用。万一の歩行者との接触時に、頭部だけでなく脚部へのダメージ軽減を図ります。



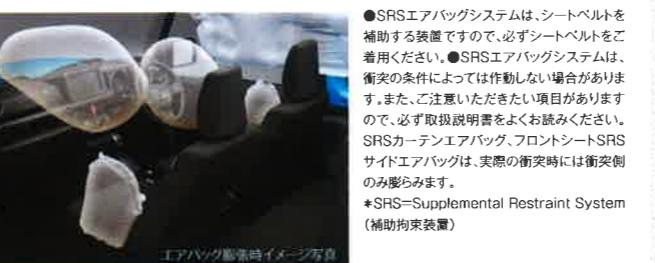
フロント・リヤELR3点式シートベルト

万一の衝突時にシートベルトの拘束性を高めるプリテンショナー機構を運転席・助手席に採用。さらに、胸部への衝撃を効果的に緩和する可変フォースリミッター機構を全席に標準装備しています。



6つのSRSエアバッグを標準装備

運転席・助手席SRSエアバッグに加え、側面衝突時の頭部への衝撃を軽減するSRSカーテンエアバッグと、胸部への衝撃を軽減するフロントシートSRSサイドエアバッグを全車に標準装備しています。



衝突時に乗員への衝撃を緩和するシート構造

高剛性・高強度なフロントシートフレームを採用。さらに高めのシートバックが後ろからの衝突に対して上体の支持を安定させ、頸部への衝撃を和らげます。



後席シートベルトリマインダー

後席乗車時にシートベルトを着用せずに発進すると、ルームミラー上のインジケーターの点灯と警告音で装着を促す後席シートベルトリマインダーを全車に標準装備。また、助手席シートベルトリマインダーも採用しています。



オートライトシステム

(JCおよびJL スズキ セーフティ サポート装着車*)
走行中、周囲の明るさや暗さに応じて、ヘッドライトなどを自動で点灯/消灯します。

ライト自動消灯システム

(JCおよびJL スズキ セーフティ サポート装着車*)
ライトスイッチがオートの位置でなくても、エンジンを切って運転席のドアを開けると自動でヘッドライトなどを消灯。ライトの消し忘れによるバッテリー上がりを予防します。